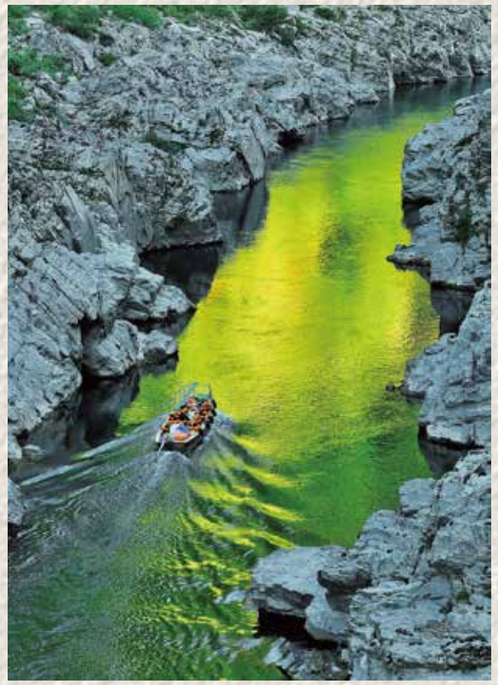

▲千年のかくれんぼフォトコンテスト
最優秀賞「水面染まる峡谷を」

## 「大歩危は、日本列島の成り立ちを知るうえで極めて重要な場所」

三好市を代表する景勝地「大歩危」が、平成26年3月18日に国の天然記念物（地質鉱物）に指定されました。

大歩危は、約2億年前から約1億年前に海底の奥深くで作られたといわれる地層が地殻変動や吉野川の浸食によって偶然姿を現した貴重な場所です。吉野川の両岸で見られる岩石や地層の様子から、日本列島の成り立ちを知ることができる国内でも希少な場所として評価されました。

新たに国の天然記念物として仲間入りした「大歩危」の価値や見所などについて、今月号と来月号で詳しくご紹介します。今月は、天然記念物の指定内容や大歩危の学術的な価値についてご紹介します。

**【お問い合わせ先】**三好市教育委員会文化財課（☎72-3910）

特集

### 国内希少の地質構造と自然景観が詰まった

# 国指定天然記念物「大歩危」

### ～大歩危に秘められた価値や見所とは～

## 指定に至った経過

大歩危が国の天然記念物に指定された背景には次のようなものがあります。一つには、大歩危は地質学を学べる手頃な場所として以前より専門家などの間でよく知られ、学術的な調査が進められてきたことです。学術的な調査が進められたのは、地元の山城町や西祖谷山村などの有識者が古くから大歩危の特徴に目をつけ、県内外から多くの専門家をこの地に招いたことが後々の調査につながりました。さらに、美しい大歩危や小歩危の自然景観を後世に守り継ごうとする地元住民の方々の英知と長年の地道な活動によって、これまで大歩危や小歩危が大切に保護されてきたという歴史があります。

今回は、こうした背景を十分踏まえながら、大歩危の価値をより明確化していくことに重点を置きました。こうした中、専門家による調査によって新たな価値づけがされ、関係者や関係機関の理解や同意が円滑にいただけたことで、指定への道が開かれました。

## 天然記念物の指定範囲

国の天然記念物に指定された場所は、現在、一般的に大歩危峡と呼ばれる範囲のほぼ中心付近にあります。今回の指定範囲は、吉野川をはさむ両岸の岩場を囲んだ範囲（図1）で、すべて国有地（河川区域）となります。延長にして南北約500m、面積は約3haとなります。

大歩危は、小歩危と一体的に学術的な価値が認められつつありますが、大歩危から小歩危までの範囲が非常に大きいため、今回は、大歩危で核となる部分をまず指定し、将来的に大歩危から小歩危周辺まで指定範囲を拡大していくこととしました。

図1　指定範囲のイメージ

▲ピンク色で囲まれた範囲が指定範囲

◀「大歩危の背斜構造」を現す岩肌

▼「大歩危の位置図」

## 大歩危の価値

大歩危は、「地質学的に希少な場所」、あるいは「V字谷と吉野川からなる自然景観は他に類を見ない魅力的な場所」というような二つの顔を持っています。その二つの顔がうまく合わさった点が「大歩危」の価値や見所ともいえます。

はじめに、地質学的な価値としては、遊覧船や遊歩道から気軽に眺められる大歩危の岩肌や岩石そのものに価値があります。岩石や岩肌から見える地層からは、日本列島の成り立ちを知ることができるとされ、今からおよそ2億年前から1億年前の地上に恐竜が生息していたといわれる時代に作られた岩石や地層が見えていると言われています。

大歩危で見られる岩石は、関東から九州にかけて日本列島を縦断して分布する三波川（さんばがわ）変成岩（へんせいがん）が広く分布しており、一般的に「三波石」、徳島では「阿波の青石」と呼ばれる石材としても有名な岩です。三波川変成岩は、中生代ジュラ紀（約2億1200万年前～約1億4300万年前）から白亜紀（約1億4500万年前から6600万年前）にかけての海洋プレートの沈み込みにより、大陸側に付加されて地下深くに押し込まれた地層が高い圧力のもとで再結晶し、今度は地殻変動によって上昇して、地表へ現れたものです。

### 間近で見える背斜構造

特に大歩危に分布する三波川変成岩は、ドーム状に盛りあがった「背斜構造（はいしゃ）」と呼ばれる特異な褶曲構造（しゅうきょく）（地層や板状の岩体が波のように曲がっている構造）をよく現しており、今回の指定範囲でもその様子が実際に確認できます。

そうした特異な地質構造や地層が間近で見えるようになった原因には、四国山地の隆起と吉野川の浸食が大きく関係しています。吉野川の激しい流れが大歩危のドーム状の背斜構造を輪切りするように浸食したことで、現在のようなV字谷の急峻な地形となったために、海洋プレートの沈み込み運動によってできた三波川変成岩が地下深くから上昇してきた過程を断面的に確認することができます。

### 逆転現象がみられる地層

しかも大歩危の地層は、見かけ上の「逆転現象」が起きています。通常は古い地層ほど、地表から離れた深い場所に底づけされますが、海洋プレートの沈み込みで新しい地層が古い地層の下側に底づけされながら古い地層を押し上げる運動が繰り返されたために、古い地層が新しい地層の上に位置づけされるという逆転現象が起きています。大歩危の場合、吉野川の河床（谷底）で見える岩石は、実は比較的新しく、およそ1億年前の砂質片岩や礫質片岩などの地層で、それより上にある地層が逆に古く、およそ2億年前の泥質片岩や緑色片岩などの地層ということが専門家の調査でわかっています。また、構造的に最も下に位置する地層が地表に現れることで、岩石や地層の成り立ちが時代ごとに分かる貴重な場所となっています。

ほかにも今回の指定範囲では、これまで遊覧船乗り場付近でしかあまり見ることができないと思われていた「含礫片岩（がんれきへんがん）」と呼ばれる珍しい岩石が確認され、さらなる価値が高まりました。

このように大歩危は、日本列島の成り立ちを知るうえで極めて重要な場所として、国の天然記念物に指定されました。

来月号では、大歩危の見所をご紹介します。